

春 告 草

第 74 号 平成 29 年 9 月 20 日 進路指導部発行

大学進学にまつわる「お金」のはなし 保護者の方は必読！

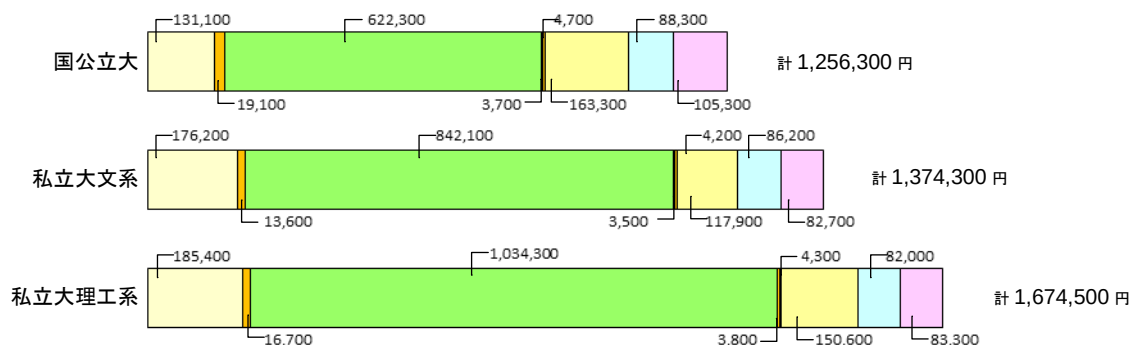
大学進学に必要なのは、学力、やる気……そして「お金」。受験から大学卒業まで、かなりかかるのだ。受験や入学手続きにかかる費用や、奨学金のことなどについて概略を解説する。今回は是非、保護者の方にも読んでおいてもらってください。

出願から入学手続きまで

国公立大入学のためには、センター試験と個別試験の受験が必要。個別試験は前期、後期と中期（一部公立大）の各日程で試験が行われる。センターの受験料は 1 万 8 千円（3 教科以上受験、成績開示希望なしの場合）で、個別試験は 1 万 7 千円（一部公立大は 1 万 8 千円）である。各日程とも出願は同時期なので、前期で合格したら後期は出願しないなどという節約精神は通用しない。出願校数分の受験料が必要となる。蛇足かも知れないが、個別試験出願には願書にセンター試験の「成績請求票」の貼付が必要なので、前期に 2 校出願しておいて倍率の低い方を受験するという虫のいいことはできない。私立大は一般入試受験料 3 万 5 千円が多いが、医学部、歯学部では 4 万円～5 万円と高額になる。センター利用入試の受験料は 1 万 5 千円程度だ。第一志望だけではなく、複数の大学・学部を併願することになれば、出願した数だけ受験料はかさんでいく。

私立大では、同じ大学の複数の学部・方式を同時に併願した場合に受験料を割り引く「併願割」や、インターネットで出願すると受験料を割り引く「ネット割」を導入するところが増えている。「併願割」の場合は一方を無料化、「ネット割」の場合は 3 千円～5 千円程度を割り引く場合が多い。多くの大学・学部を併願せざるを得ない場合は上手に利用したい。

出願から入学までにかかる諸費用



「2016年度 保護者に関く 新入生調査報告書」(全国大学生生活協同組合連合会)

上のグラフは入試出願から入学までにかかった諸費用の合計を現在通学している大学・学部系統別に集計したものである。データはすべて自宅通学生のもので、下宿生のデータは割愛しているが、自宅生に比べて約80万円程度の負担増というデータが出ている。

グラフデータの金額の差は学校納付金の差によるものだが、納付金で悩むのが複数の大学を受験した場合、先に合格した大学に、とりあえず期限までに入学金や授業料（の一部）を支払わなければならないということ。他大学に進学し、そ

- ① 出願費用(受験料、郵送料など)
- ② 受験のための費用(交通費など)
- ③ 学校納付金(入学金、授業料など)
- ④ 合格発表、入学手続き費用(交通費など)
- ⑤ 入学式出席のための費用(交通費など)
- ⑥ 教科書、教材購入費(教科書、パソコンなど)
- ⑦ 生活用品購入費(電話機、自転車、衣類など)
- ⑧ その他(4月の生活費、保険料など)

※各項目の金額及び合計額は各々の平均額であり、そのため各項目の平均額の合計と合計の平均額は一致しない場合がある。

の大学への入学を辞退しても納付金（少なくとも入学金）が戻ってこないところがほとんどで、その為の出費が、一人平均で約30万円強というアンケート結果もある。余計な出費をしないように受験プランを考える必要があるが、思うようにはいかないことが多いのが現実だ。とはいえ、第一志望の可否が分からない段階では、やむを得ない出費である。

グラフでも見たように学校納付金は、国公立大と私立大とで金額に開きがある。国公立大学は学部を問わず合計で約82万円である。入学金が約28万円、授業料は約54万円（年額）である。首都大が東京都民の入学金を半額にするなど、公立大は地元受験生に優遇措置をしている。私立大では学部によって相当な差がある。文系各学部の平均額は約128万円で、各学部の差はあまりない。しかし、理系学部は文系に比べて高額で、しかも学部系統間の差が大きい。右表は2016年度のデータ（全国578大学対象 旺文社集計）だが、理・工・農学系学部の平均は約158万円、薬学部は約215万円、医学部や歯学部では何百万円単位のお金が必要となる。

また、医学部をはじめ歯学部・獣医学部や薬学部（薬剤師養成コース）は6年制なので、授業料をはじめとする諸費用が他学部に比べて2年分余計に必要となる。さらに、理学部や工学部、農学部では、大学によって割合は異なるが、学部卒業後、大学院修士課程（2年制）に進学する人も多い（春告草68号参照）。そのための入学金や授業料などの出費が相当あることも忘れてはいけない。

入試前予約型給付奨学金導入の大学が増加

受験料割引制度など、私立各大学では志願者増加への経営努力がみられるが、優秀な学生を確保するため、大学独自の給付型奨学金制度を導入している。

その中でも、最近注目を集めているのが「入試前予約型奨学金制度」である。この制度の特徴は、受験する前にあらかじめ、入学試験に合格したら入学後にこの奨学金を利用する旨を申し込む、というものだ。

申請した後、受験する前に大学が定める諸条件について審査（保護者の年収制限など）があり、採用通知が大学から来れば、あとは入試に集中すればよい。めでたく合格し入学した後、所定の手続きを行うことで、数十万円といった金額が支給されたり、授業料が減免・免除されたりする。給付型なので返済の義務はない。

給付型の奨学金制度はこれまでもあったが、募集が入学後だったり、指定された入試の成績優秀者が対象だったり、募集も数人程度の「狭き門」であることが多かった。しかし、最近の「予約型奨学金」は募集人数が比較的多く、基本的に合格すればよく（対象となる入試の制限や、高校在学時の成績条件があったりもするが）、受験前に奨学金がもらえるかどうか確定していることも多いので、入学後のマネープランが立てやすい。もちろん、日本学生支援機構など他の機関の奨学金も併用できる。

このタイプの奨学金を導入しているのは、私立では首都圏、京阪神といった大都市圏の大規模な大学が多い。対象は首都圏の一都三県以外の受験生としているケースが多いが、立教大学では首都圏出身者を対象とする「セントポール奨学金」を今年度から新設した。成績条件や保護者の収入制限があるが、採用予定者数は約250人で、採用され、合格・入学すれば年額40万円（理学部は60万円）が給付される。入学後、次年度の給付継続の可否について成績の査定があるが、以前より行っている「自由の学府」奨学金の継続率は、2年進級時で約70%、3,4年進級時で80~90%だという。国立大でも東日本を中心に導入校が徐々に増えている。（裏面に続く）

私立大学・学部系統別「初年度納入金平均額」(2016年度)			
学部系統	入学金	授業料	初年度納入金
文科系			
文	241,130	758,849	1,288,086
外国語	240,455	752,597	1,287,667
人文・教養・人間科学	240,024	771,911	1,302,717
教育・教員養成	245,466	770,347	1,342,153
法	230,499	731,790	1,218,068
経済・経営・商	231,720	738,492	1,240,366
社会・社会福祉	241,409	763,550	1,301,196
国際関係	232,064	781,071	1,298,042
理工農系			
理	242,164	960,335	1,545,681
工	241,854	997,754	1,588,247
農・獣医畜産・水産	251,475	904,016	1,591,773
医療系			
医	1,273,333	2,749,167	7,455,537
歯	600,000	3,148,824	5,330,706
薬	329,859	1,393,411	2,153,655
看護・医療・栄養	272,513	966,124	1,694,388
その他			
家政・生活科学	249,073	782,244	1,375,517
体育・健康科学	245,178	806,311	1,391,877
芸術	246,315	981,948	1,610,143

2017年度「入試前予約型奨学金」の主な実施例

2017年度入試で「入試前予約型奨学金」制度を導入した大学の中から、都内在住の生徒が申込みできる大学の一部を紹介する。今年度の募集に関しては各大学のHPで確認してください。奨学金の前に☆印をつけた大学は次年度からの新規実施大学で、今年度の応募条件などを掲載している。

お茶の水女子大学

“みがかずば”奨学金

【給付額】年額30万円
 【給付期間】2年間(各年度で報告書提出)
 【採用者数】約25名
 【応募条件】一般入試、新フンボルト入試、推薦、高大連携特別入試の出願を予定する、学習成績概評A段階以上の現役生。父母の年収合計が900万円未満(税込み、事業所得等の場合は414万円未満)。
 【申請期間】9月1日～20日
 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用

電気通信大学

UEC修学支援奨学金

【給付額】入学一時金50万円、授業料全額免除
 【給付期間】入学一時金は1回、授業料は4年間(2年目以降の継続については、成績等で判定)
 【採用者数】男子・女子各10名以内
 【応募条件】一般入試の受験予定者。入学後、同大学の教育・広報活動に協力。
 【申請期間】11月1日～12月2日
 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は1月上旬までに、本人と学校長に通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用

信州大学

信州大学知の森基金 信州大学サポート奨学金

【給付額】40万円
 【給付回数】1回
 【採用者数】25名程度
 【応募条件】一般入試前期日程に出願を予定する、評定平均値3.5以上の現役生。世帯の年収合計が400万円以下(税込み、事業所得等の場合は200万円以下)。
 【申請期間】11月21日～12月16日
 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は1月10日に学校長に通知)→出願・受験→合格・正式採用(3月6日)→入学手続→振込(3月21日)

新潟大学

輝け未来!!

新潟大学入学応援奨学金

【給付額】40万円。入寮希望者に対し優先的に学生寮を確保し、最短修業年限までの寄宿寮を免除。
 【給付回数】1回(3月17日に振込)
 【採用者数】50名程度(推薦入試10名程度、前期日程40名程度)
 【応募条件】推薦入試または前期日程に出願予定の、評定平均値3.5以上の現役生。世帯の収入合計が400万円以下(事業所得等の場合は200万円以下)。
 【申請期間】推薦＝10月3日～21日、前期＝11月7日～12月2日
 【給付までの流れ】書類審査→内定(推薦は1月18日、前期は12月26日に結果発表。本人と学校長に通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用(3月8日)

上智大学

新入生奨学金

【給付額】授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額を学業成績と経済状況等を総合判断し採用額を決定
 【給付期間】1年間
 【応募条件】入試出願者で、上智大学への入学を第一志望とし、経済的理由により入学が困難、かつ出身学校の成績が優秀な者。給与収入で700万円(税込み)、事業所得で400万円が目安だが、詳細は要項で確認のこと。
 【申請期間】12月1日～1月12日
 【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(入試の合格発表前に郵送で通知)→合格・入学手続→正式採用

東京理科大学

☆新生のいぶき奨学金

【給付額】年額40万円(成績、家計基準については毎年審査を行う)
 【給付期間】4年間(薬学部は6年間)
 【採用者数】100名
 【応募条件】昼間学部的一般入試を受験する自宅外通学予定者。給与所得世帯においては700万円未満、給与所得世帯以外においては292万円未満の者。
 【申請期間】募集要項は10月公開予定
 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用

日本大学

☆日本大学創立130周年記念奨学金

【給付額】年額30万円
 【給付期間】最短修学期間
 【採用者数】約250名
 【応募条件】日本大学学部(法学部第二部は除く)又は短期大学部の一般入試に出願予定の者で、父母の収入・所得金額を合算した金額が800万円以下(給与所得以外の場合は350万円以下)。
 【申請期間】11月1日～30日
 【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は12月25日までに採用通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用

立教大学

☆セントボール奨学金

【給付額】年額40万円(理学部は60万円)
 【給付期間】4年間(学業成績、収入基準により継続審査あり)
 【採用者数】250名
 【応募条件】一般入試またはセンター利用入試を受験する者で評定平均値が4.0以上。主たる家計支持者の収入・所得金額が給与所得世帯においては500万円未満、給与所得世帯以外においては150万円未満であること。
 【申請期間】平成30年1月5日～1月24日一般入試出願期間と同一日程。
 【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(選考結果は2018年2月16日に、本人へ通知)→合格発表

入試前予約型奨学金制度を導入または導入予定の大学を紹介したが、これ以外に入学後の申請で採用される奨学金制度を導入している大学は多い。給付型の奨学金も多いので、自分の志望している大学の奨学金制度は一度調べてみると良いだろう。



奨学金のこと

説明する順序が逆になってしまったが、最後に「奨学金」全般について説明しておきます。「奨学金」というと聞こえはよいが、要するに借金である。近年、新聞やテレビで報じられているように、大学卒業後に就職しても低賃金だったり、非正規雇用で不安定な立場だったり、就職先が倒産したりするなどで、奨学金を返還できない人が増え、社会問題化している。奨学金を利用するメリットやデメリットを十分に理解して上手に利用していきたいものだ。

奨学金制度を上手に利用する「4つのポイント」

①利用しやすいか

②おトクか(メリットはあるか)

③利用の目的は何か

④デメリットは何か

●奨学金には2タイプ

学生時代に受け取った奨学金を、大学卒業後に返還しなければいけないのが「貸与型」で、返還義務のないのが「給付型」である。さらに貸与型には利息がつくものと、つかないものがある。日本学生支援機構(JASSO)は国による奨学金制度で、利用も多い。成績基準などは右表に示す通りである。貸与型のデメリットは卒業後の返済義務だが、基準は緩やかであり、第二種は採用される可能性も高い。給付型は返済義務がないが、学業成績や家庭の経済状況の審査基準が厳しく、さらに募集人員も少なく「狭き門」であることがデメリットとなっている。

日本学生支援機構「貸与型奨学金」予約採用の資格や条件

奨学金の種類	学力の基準	年収・所得の上限額	
		給与所得世帯	給与所得世帯以外の世帯
第一種(利息なし)	評定平均値3.5以上(※)	747万円	349万円
第二種(利息あり)	①学業成績が平均水準以上 ②特定分野で特に優れた資質・能力がある ③進学先の学校における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがある	1,100万円	692万円
第一種と第二種の併用	第一種と同じ	686万円	306万円

※経済状況等の理由により、基準未満でも申し込みは可

ただし、大学が独自に運営する給付型奨学金は前述した通り、導入大学が増加の傾向にあり、採用者数も確実に増加しているので、以前に比べれば借りやすい環境は整ってきている。さらに、日本学生支援機構でも今年度より「給付型奨学金」を創設した。

●医療・福祉系を目指す人におすすめの奨学金

少数ながら、基本的には貸与型だが、卒業後に奨学金を運営する組織や団体などが定める諸条件をクリアすれば返済が免除されるものがある。

こういった「特殊タイプ」は、医師や看護師、社会福祉士、介護福祉士などを目指す人が対象となっている。そのため、これらの資格を取得できる大学を志望する人にとってはおトクな制度である。

具体的には、これらの職業を目指すために大学に入学し、奨学金を利用して卒業の後、国家試験に合格すれば、奨学金を貸与した団体や機関、自治体などが運営する病院などの医療機関で一定期間(医学部の「地域医療枠」では9年程度が多い)働くことで、返還が免除されるというものだ。

特に、看護師を目指す人向けの奨学金は、地方自治体の他に、規模の大きい病院なども独自に実施しており、利用できる可能性は比較的高い。強い志望動機を持っている人にとっては、利用価値の高い制度といえる。

●入学前にかかる多額の費用は教育ローンでカバーする

確認しておかなければいけないことは、奨学金は大学入学後の給付・貸与であるということ。すでに説明してきた通り、私立大は勿論のこと、国公立大入学でも、入学金、授業料、施設設備費、実験・実習費などの学校納付金が入学前に必要となる。また、推薦入試やAO入試の場合は、合格が出た秋から冬にかけての早い段階で多額の費用が必要となる。これらの支払いに、奨学金を充てることはできないのだ。

こうした、まとまった費用をまかなう手段として「教育ローン」がある。大手銀行をはじめ、各地方銀行や信用金庫などの各種金融機関が、大学進学にかかわるあらゆる費用をまかなうことを目的に貸し出す金融商品だ。日本政策金融公庫の「国の教育ローン」は一般のものに比べて、金利が低く設定されていて、2017年9月の時点で、1.81%の固定金利となっている。貸付限度額は350万円だ。